



< 20 - 13 >

2020年6月

先生各位

新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、下記検査項目の受託を開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内申し上げます。

謹白

記

■新規受託項目:

- ・ LRG(ロイシンリッチ α 2グリコプロテイン)

[項目コード:4065]

■新規受託開始日:

2020年 6月 22日(月)受付分より

以上

※ 裏面をご覧ください。

●LRG(ロイシンリッチα2グリコプロテイン)

ロイシンリッチα2グリコプロテイン(Leucine-rich alpha 2 glycoprotein;LRG)は炎症性腸疾患(Inflammatory bowel disease;IBD)の寛解期と活動期を反映することが出来る新しい血清バイオマーカーです。

IBDは原因が明らかにされていない慢性非特異性腸炎の総称で難病指定されており、潰瘍性大腸炎とクローン病に分類され、腹痛、下痢、血便などの症状を再燃と寛解を繰り返しながら慢性的に推移する炎症性疾患です。比較的若年に発症し、日本における患者数は21万人以上と推測されており、増加傾向にあると考えられています。

糞便を材料とするカルプロテクチンはIBDの診断補助(糞便材料のため疾患特異性が高い)に、一方、血清を材料とするLRGはIBDの活動期の判定補助に有用です。また、IBDにおいて、血液中のLRG濃度は内視鏡検査による疾患活動性と強く相関しているため、治療に伴う疾患活動性の変化を簡便かつ適切に評価でき、不要な内視鏡検査を回避することや、治療薬の増減や変更を判断することが容易になります。

潰瘍性大腸炎の活動期の判定には臨床指標(CAI: Clinical Activity Index)、CRPおよびLRGの組み合わせが有用であり、クローン病においては臨床指標(CDAI: Crohn's Disease Index)、CRPおよびLRGの組み合わせが、活動期の判定補助に有用です。

項目コード	4065
検査項目名	LRG(ロイシンリッチα2グリコプロテイン)
検査方法	ラテックス凝集比濁法(LA)
検体材料・検体量	血清 0.4mL [容器番号 : 01番]
保存方法	冷蔵
基準値*1・単位	16.0 μg/mL 未満 (炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準値) ※健常者参考値:6.48~13.92 μg/mL
所要日数	3 ~ 8 日
保険点数	276 点*2,3
判断料	144 点 (生化学的検査(I)判断料)
報告下限値	5.0 μg/mL 未満
報告上限値	99,999.9 μg/mL 以上
報告桁数	小数1位、有効6桁
備考	<p>*1: 判定上の留意事項 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。</p> <p>*2: 血清検体として、LRGを潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載してください。</p> <p>*3: 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン(糞便)または「[D313]大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。</p>

<ご案内>

- ・項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。